

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	生物学	桑嶋 文子
実務経験	高等学校教諭免許を有し、高等学校において理科目教授の経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	前期	2(30+2)
授業の目的		
生命現象の不思議に眼を向け生物学の基礎を学び、生命の大切さを認識すると共に、細胞の構造 働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得する。		
行動目標		
1. 生物体の成り立ちについて理解する。 2. 生物体の働きについて理解する。 3. 生物体の調整のメカニズムを理解する。 4. 生命の連続性、特に遺伝のメカニズムを理解する。 5. 生物の集団について理解する。 6. 生命の変遷について理解する。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
歯科衛生学シリーズ「生物学」(医歯薬出版)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	4月11日(2)	生物学とは 生命を作る物質 細胞を作る物質 タンパク質の構造 核酸
2	4月18日(2)	細胞の構造と特徴 細胞の活動 酵素の特徴
3	4月25日(2)	ATP 細胞呼吸 運動 分泌
4	5月 2日(2)	組織と器官
5	5月 9日(2)	消化器官系・循環器官系・呼吸器官系・泌尿器官系の構造と働き
6	5月16日(2)	生殖の方法 減数分裂と体細胞分裂の比較 細胞の一生と個体の成り立ち
7	5月23日(2)	減数分裂 ヒトの発生 発生と分化のしくみ
8	5月30日(2)	遺伝と遺伝子 耳垢の遺伝 血液型の遺伝
9	6月 6日(2)	生命をつくる仕組み 遺伝子の本体 遺伝子の形質支配
10	6月13日(2)	刺激の受容と反応 興奮の伝達 目と耳の構造と特徴
11	6月20日(2)	神経系 脳の構造と働き ホルモン
12	6月27日(2)	ホメオスタシス 体内時計とバイオリズム 血液の組成と働き 血液凝固
13	7月 4日(2)	動物の行動(走性 反射と無条件反射 本能行動・学習行動・刷り込み 知能による行動)
14	7月11日(2)	生物の集団
15	7月18日(2)	自然と人間 生態系 エネルギーの流れ 生物濃縮
16	7月25日(2)	試験

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		化学	桑嶋 文子
実務経験		高等学校教諭免許を有し、高等学校において理科目教授の経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	2(30+2)	
授業の目的			
物質の性質・構造・変化・特性等の基礎的事項を学び、歯科臨床で扱う種々な材料の理解に役立てる。			
行動目標			
物質に興味を持ち、化学の不思議に目を向け、積極的に探求する姿勢を身につけると同時に、化学の基礎的事項を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「化学」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 5日(2)	物質とは 同素体 元素と原子 原子の構造	
2	9月12日(2)	原子番号と質量数 同位体 分子 原子の電子配置 価電子	
3	9月19日(2)	イオン式と名称 イオン化エネルギー 電子親和力	
4	9月26日(2)	元素の周期表 族の名称 物質量(原子量 分子量 式量)	
5	10月 3日(2)	molの定義 化学結合(イオン結合 共有結合)	
6	10月10日(2)	気体(5つの法則) 空気は何から 気体を使う 笑気について	
7	10月17日(2)	パーセント濃度(HCL水溶液 消毒用エタノール オキシドール 百万分率)	
8	10月24日(2)	百万分率 モル濃度	
9	10月31日(2)	コロイドの性質・種類	
10	11月 7日(2)	酸・アルカリの特徴 アレニウス定義 電離式	
11	11月14日(2)	[H ⁺]と[OH ⁻]	
12	11月21日(2)	酸化と還元	
13	11月28日(2)	有機化合物の特徴・分類	
14	12月 5日(2)	示性試と官能基	
15	12月12日(2)	環式化合物 ヒトを作っているものは	
16	12月20日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		英語学	ダイス・ヤマカワ
実務経験		外国語スクール非常勤講師・英会話教室講師等の経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	前・後期	4(62)	
授業の目的			
歯科診療所を訪れる外国人の患者さんとコミュニケーションが図れるように、基礎的な英会話を身につける。			
行動目標			
1. 基礎的な英会話を身につける。 2. 患者さんとの基礎的な英会話(受付での会話等)を身につける。 3. 歯科衛生学に関連する専門用語のうち、代表的なものを理解し列挙できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験(筆記及び口述)の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		オリジナル教本 歯科衛生学シリーズ「歯科英語」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月11日(2)	クラスの説明 自己紹介 オリジナル教材pg4-6	
2	4月18日(2)	オリジナル教材pg4-6	
3	4月25日(2)	オリジナル教材pg7-9	
4	5月 2日(2)	オリジナル教材pg9,10	
5	5月 9日(2)	オリジナル教材pg11	
6	5月16日(2)	オリジナル教材pg12	
7	5月23日(2)	小テスト Review オリジナル教材pg13	
8	5月30日(2)	オリジナル教材pg14	
9	6月 6日(2)	オリジナル教材pg15	
10	6月13日(2)	オリジナル教材pg15	
11	6月20日(2)	オリジナル教材pg17	
12	6月27日(2)	オリジナル教材pg15,16,17,	
13	7月 4日(2)	オリジナル教材pg10-18	
14	7月11日(2)	オリジナル教材pg11-19 歯科英語:pg15-21	
15	7月18日(2)	前期試験	
16	9月 5日(2)	オリジナル教材pg20 歯科英語:pg 54-55	
17	9月12日(2)	オリジナル教材pg15,16,17,20,21 歯科英語:pg60,61	
18	9月19日(2)	オリジナル教材pg22 歯科英語:pg 62-63	
19	9月26日(2)	オリジナル教材pg16,17,19,22,23,24 歯科英語:pg 89-90	
20	10月 3日(2)	オリジナル教材pg25 歯科英語:pg 95,96	
21	10月10日(2)	オリジナル教材pg20,21,22,23,24	
22	10月17日(2)	オリジナル教材pg22,23,24,25 歯科英語:111-112	
23	10月24日(2)	歯科英語:pg 67,68,69	
24	10月31日(2)	オリジナル教材28,29 歯科英語:pg73	
25	11月 7日(2)	オリジナル教材24-27 歯科英語:pg 73	
26	11月14日(2)	試験 Review	
27	11月21日(2)	オリジナル教材18-23	
28	11月28日(2)	オリジナル教材8,17,22,28-29	
29	12月 5日(2)	試験 Review	
30	12月12日(2)	リスニング練習	
31	12月19日(2)	年度末試験	

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	ビジネス実務	坂口 和江
実務経験	3年以上の事務職経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	前期	2(30)
授業の目的		
チーム医療の担い手として活躍するために、社会人としての常識を踏まえた対応を習得する。		
行動目標		
1. 社会の仕組みを理解する。 2. 社会人としての基本的マナーを身につける。 3. 円滑なコミュニケーション能力を身につける。 4. 社会人としての、言葉遣いを身につける。 5. 社会人としての基本的礼儀を身につける 6. 礼状の書き方を習得する		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
ビジネス能力検定3級ジョブパス公式テキスト2016年(日本能率協会マネジメントセンター)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	4月13日(2)	専門学校生に求められるもの
2	4月20日(2)	何のために働くの？
3	4月27日(2)	仕事の基本となる8つの意識
4	5月 6日(2)	職場のコミュニケーション
5	5月11日(2)	ビジネスマナーの基本
6	5月18日(2)	指示の受け方と報告・連絡・相談
7	5月25日(2)	話し方の基本
8	6月 1日(2)	感じの良い言葉遣い
9	6月 8日(2)	敬語の使い方
10	6月15日(2)	来客対応
11	6月22日(2)	面談の基本マナー
12	6月29日(2)	訪問のマナー
13	7月 6日(2)	電話対応
14	7月13日(2)	お礼状の書き方
15	7月20日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	解剖組織学	島田 涉
実務経験	臨床検査技師免許を有し検査機関での勤務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	前・後期	2(32+2)
授業の目的		
人体の構造を機能と関連づけながら学び、ヒトの生体を理解する。また、組織発生の基本的事項を学び、さらなる理解を深める。		
行動目標		
1. 人体各部の名称・構造が理解できる。 2. 各系統別の機能・構造・種類が理解できる。 3. 組織・発生の基本的事項が理解できる。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版) 人体骨格模型 色鉛筆 ファイル
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	4月14日(2)	解剖学で学ぶこと 細胞の構造と機能、増殖と寿命
2	4月28日(2)	心臓の構造 体循環と肺循環
3	5月12日(2)	心臓の内景と大血管(スケッチ) 血管系
4	5月26日(2)	組織(上皮 支持 筋 神経)
5	6月 2日(2)	神経系 大脳の外景と機能局在
6	6月 9日(2)	末梢神経系(脳神経 脊髄神経 自律神経)
7	6月16日(2)	感覚器(眼球 耳)
8	6月23日(2)	リンパ系
9	6月30日(2)	骨格系(骨の機能 構造 形態 上肢骨と下肢骨 脊椎 胸郭)
10	7月 7日(2)	筋の形状と分類 体の各部位の筋
11	7月14日(2)	泌尿器 腎臓
12	7月21日(2)	内分泌器官(視床下部 下垂体 甲状腺 副甲状腺)
13	9月 1日(2)	内分泌器官(副腎 膵臓 卵巣 精巣 松果体)
14	9月 8日(2)	呼吸器系(鼻腔 咽頭 喉頭 気管 気管支 肺)
15	9月15日(2)	消化器系(口腔 咽頭 食道 胃 小腸 大腸 直腸)
16	9月22日(2)	消化器系(肝臓 胆嚢 膵臓)
17	9月26日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	病理学	北島 晴比古
実務経験	歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	前期	1.5(24+2)
授業の目的		
全身の代表的病変についてそのメカニズムや病態生理を理解し、口腔病理学に繋げ、歯科臨床に役立てる。		
行動目標		
1. 病因論について理解する。 2. 遺伝性疾患について理解する。 3. 循環障害について理解する。 4. 代謝障害について理解する。 5. 増殖と修復について理解する。 6. 炎症と免疫応答異常について理解する。 7. 腫瘍について理解する。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
歯科衛生学シリーズ「病理学・口腔病理学」(医歯薬出版) プリント PC プロジェクター		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	4月26日(2)	病理学序論と病因論
2	5月10日(2)	遺伝性疾患と奇形
3	5月17日(2)	循環障害
4	5月24日(2)	循環障害
5	5月31日(2)	小テスト 代謝障害と退行性病変
6	6月 7日(2)	代謝障害と退行性病変
7	6月14日(2)	増殖と修復
8	6月21日(2)	小テスト 炎症と免疫応答異常
9	6月28日(2)	炎症と免疫応答異常
10	7月 5日(2)	腫瘍1
11	7月12日(2)	腫瘍2
12	7月19日(2)	まとめ
13	7月26日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	口腔病理学	北島 晴比古
実務経験	歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	後期	1.5(24+2)
授業の目的		
病理学で学んだ基本的事項をベースに、口腔領域の主な疾患について理解する。		
行動目標		
口腔領域の主な疾患について、病因論・メカニズムを理解する。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「病理学・口腔病理学」(医歯薬出版) プリント PC プロジェクター
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	9月6日(2)	歯の発育異常
2	9月13日(2)	歯の損傷と着色・付着物
3	9月20日(2)	う蝕の病院論・分類
4	9月27日(2)	小テスト 象牙質・歯髄複合体の病変
5	10月4日(2)	歯周組織の病態
6	10月11日(2)	口腔粘膜の病変
7	10月18日(2)	小テスト 口腔領域の嚢胞と腫瘍
8	10月25日(2)	口腔癌
9	11月1日(2)	顎骨の病変
10	11月8日(2)	小テスト 唾液腺の病変
11	11月15日(2)	口腔領域の奇形
12	11月22日(2)	口腔組織の加齢変化
13	12月4日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名	
歯科衛生士科	微生物学・臨床検査	島田 涉	
実務経験	臨床検査技師免許を有し検査機関での勤務経験を有する		
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	2(24+8+2=34)	
授業の目的			
感染性疾患の原因である微生物について基礎的事項を学び、発症のメカニズムを理解し、予防に役立てる。			
行動目標			
1、微生物と人の共生関係について理解できる。 2、微生物の一般的性状、各微生物の特徴が理解できる。 3、臨床検査の実習を通し、微生物について実感的な理解を促し、手洗いの必要性を理解する。 4、顕微鏡観察の方法を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書			
最新歯科衛生士教本「微生物学」(医歯薬出版) プリント 顕微鏡 細菌培養検査キット			
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月6日(2)	微生物とは? 微生物の大きさ 耐性菌と院内感染 常在菌の役割	
2	10月13日(2)	感染(感染と感染症 不顕性感染 易感染性宿主 日和見感染 院内感染 経路感染)	
3	10月20日(2)	垂直感染 菌の形態 グラム染色	
4	11月10日(2)	菌の発育に関わる条件 外毒素と内毒素 グラム陽性球菌	
5	11月17日(2)	グラム陽性桿菌	
6	11月24日(2)	グラム陰性桿菌	
7	12月1日(2)	感染症と毒素型 歯周病原性細菌 細菌・マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア・ウイルスの相違点	
8	12月8日(2)	ウイルスとウイルス感染症	
9	12月15日(2)	肝炎ウイルス	
10	1月19日(2)	免疫細胞の種類と役割	
11	1月26日(2)	液性免疫と細胞性免疫 抗体について	
12	1月31日(2)	臨床検査1(手指の細菌培養検査)	基礎
13	2月2日(2)	消毒と滅菌 培養実験観察	基礎
14	2月7日(2)	臨床検査2(生理的機能検査と検体検査 血液検査)	基礎
15	2月9日(2)	臨床検査2(顕微鏡での血液細胞観察)	基礎
16	2月16日(2)	まとめ	
17	2月26日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	口腔微生物学(実習含む)	畔上 卓也
実務経験	歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	後期	1(16+2)
授業の目的		
歯科2大疾患であるう蝕と歯周疾患に関連の深い口腔微生物の種類と生態及び病因論について学び、歯科治療、歯科予防処置、歯科保健指導の展開に役立てる。また、う蝕活動性試験について学び、その活用法を理解する。		
行動目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔環境について理解する。 2. 口腔内の感染予防因子について理解する。 3. 口腔常在菌叢とその遷移を理解する。 4. 歯垢とその形成機序及び形成過程を説明できる。 5. う蝕とそれに関連する菌について説明できる。 6. 歯肉炎・歯周炎の種類とそれに関連する菌について説明できる。 7. 院内感染予防対策について理解する。 8. う蝕活動性試験のメカニズム・種類について理解する。 9. う蝕活動性試験結果の保健指導への展開法を学ぶ。 		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
歯科衛生学シリーズ「微生物学」 (医歯薬出版) 口腔微生物検査器材 PC プロジェクター		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	10月 6日(2)	口腔内常在微生物
2	10月13日(2)	口腔感染症(齲蝕 歯周病 その他の口腔感染症①)
3	10月20日(2)	口腔感染症(その他の感染症②)
4	11月10日(2)	化学療法
5	11月17日(2)	院内感染対策と滅菌・消毒
6	11月24日(2)	口腔微生物検査:齲蝕活動性試験; RD デントバフ 唾液流出量 デントカルト カリオスタット 基礎
7	12月 1日(2)	口腔微生物検査:口腔微生物の動的観察実習 基礎
8	12月 8日(2)	まとめ
9	12月19日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	薬理学	桜井 浩
実務経験	薬剤師免許を有し、県職員、調剤薬局等での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	後期	2(30+2)
授業の目的		
「薬とは何なのか」「なぜ効くのか」この二つの疑問について論理的に理解する。 加えて代表的な薬剤の特性を理解する。		
行動目標		
1. 薬物の作用機序を理解し、説明できる。 2. 薬物の生体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)を理解し、説明できる。 3. 各々の薬の特性を理解し、各疾患と関連付けながら理解する。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書 歯科衛生学シリーズ「薬理学」(医歯薬出版)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	9月 6日(2)	薬物の定義と分類
2	9月13日(2)	薬物の保存 作用 用量
3	9月20日(2)	薬物の作用メカニズム 受動拡散 解離定数
4	9月27日(2)	薬物動態、薬物投与方法
5	10月 4日(2)	薬物の投与方法 投与方法による作用の違い 生物学的利用法 薬物耐性・依存・併用作用
6	10月11日(2)	薬物に影響を及ぼす要因 薬の副作用 歯科領域における薬物の副作用
7	10月18日(2)	中枢神経系
8	10月25日(2)	中枢神経系と薬
9	11月 1日(2)	末梢神経系と薬
10	11月 8日(2)	高血圧治療薬 不整脈治療薬 心不全治療薬 狭心症治療薬 呼吸器系治療薬 高脂血症治療薬
11	11月15日(2)	去痰薬 血液凝固薬 止血薬 抗血栓薬 抗貧血薬
12	11月22日(2)	抗貧血薬 炎症及び抗炎症薬
13	11月29日(2)	ビタミン ホルモン
14	12月 6日(2)	代謝性疾患治療薬 感染症と薬
15	12月13日(2)	腫瘍及び抗腫瘍薬 歯科治療薬試験
	12月20日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	口腔衛生学	小出 浩貴
実務経験	歯科医師免許を有し、健康センター等での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	後期	3(48+2)
授業の目的		
口腔環境、口腔疾患の病院論・予防法等口腔衛生の基礎的事項について学び、これから展開される専門的科目の理解を促す。また、歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助の業務を展開するための知識の基礎を身につける。		
行動目標		
1. 口腔衛生の意義を認識し、歯・口腔の健康について説明できる。 2. 歯・口腔の汚れ、清掃法について理解し、保健指導の基礎とする。 3. う蝕のメカニズム及び予防法について説明できる。 4. 歯周疾患のメカニズム及び予防法について説明できる。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書 歯科衛生学シリーズ「保健生態学」 医歯薬出版		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	9月 1日(4)	口腔衛生学の意義、口腔衛生学概論 歯と口腔の構造
2	9月 4日(4)	歯と口腔の健康 歯・口腔の発生発育
3	9月11日(4)	歯・口腔の健康 成長と発育・機能 口腔と全身の関係
4	9月25日(4)	歯・口腔付着物・沈着物 口腔清掃 う蝕の疫学
5	10月 2日(4)	歯周疾患の疫学 その他の疾患の疫学 フッ素の性質・応用法
6	10月30日(4)	フッ素の応用法 歯周炎(病態～予防法)
7	11月 6日(4)	その他の疾患(口腔癌 不正咬合 顎関節症) ライフステージ毎の口腔管理
8	11月13日(4)	復習①
9	11月20日(4)	復習② 放射線 染色体・DNAの働き
10	11月27日(4)	全身と口腔の関わり その他の疾患
11	12月 4日(4)	演習(口頭試問形式)
12	12月11日(4)	総復習
13	12月19日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	歯科臨床概論	山崎 富美子
実務経験	歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	前期	2(40+2)
授業の目的		
歯科医療について理解すると同時に歯科衛生士の役割について理解し、歯科医療人としての自覚を促す。また歯科疾患の概要及び歯科治療の概要を理解し、その後の専門科目の理解に繋げる。		
行動目標		
1. 歯科医療の概要を理解する。 2. 歯科疾患の概要を理解する。 3. 歯科診療の流れ・概要を理解する。 4. 歯科医療における歯科衛生士の役割を理解する。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		「歯科衛生士のための歯科臨床概論」(医歯薬出版) PC プロジェクター
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	4月13日(4)	歯科診療とは(臨床の場 関わる人々 対象者) 歯科診療所(スタッフ)
2	4月20日(4)	歯科診療所における医療安全(医療安全～インフォームドコンセント)
3	4月27日(4)	歯科診療の流れ 歯科疾患の概要
4	5月11日(4)	各歯科診療のながれ;診査・検査・前処置
5	5月18日(4)	各診療の流れ科;歯科保存
6	5月25日(4)	各科診療の流れ;歯周治療
7	6月 1日(4)	各科診療の流れ;歯科補綴
8	6月 8日(4)	各科診療の流れ;口腔外科
9	6月15日(4)	各科診療の流れ;小児歯科、矯正歯科
10	6月22日(4)	各科診療の流れ;障害者歯科、高齢者歯科
11	7月18日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	歯内療法学	鹿熊 豊
実務経験	歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	後期	2(32+2)
授業の目的		
歯の硬組織疾患から継発して起こる歯髄及び根尖性歯周疾患に対する治療法を学び、使用する器材及び薬剤の使用法について理解し、さらに歯科衛生士の担う役割を理解する。		
行動目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の保存療法の種類について理解する。 2. 歯内療法と歯科衛生士の関わり方について考える。 3. 歯髄の保存療法について理解する。 4. 歯髄の除去療法について理解する。 5. 根管治療・根管充填について理解する。 6. 歯内療法の各治療の流れ、器材、薬剤について理解する。 		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「保存修復・歯内療法」(医歯薬出版) 歯内療法用器具器材 プロジェクター
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	11月29日(4)	歯内療法の概要(歯内疾患の概要と原因 歯髄疾患・根尖性歯周疾患の分類・症状、処置)
2	12月 6日(4)	歯髄保存療法 歯髄除去療法
3	1月10日(4)	根管治療
4	1月17日(4)	根管充填
5	1月24日(4)	外科的歯内療法 歯の外傷
6	1月31日(4)	歯内療法における安全対策 ホワイトニング
7	2月 7日(4)	歯内療法における歯科衛生士の役割、実習 基礎 ユニット
8	2月14日(4)	まとめ
9	2月22日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	う蝕予防処置	笠井 宏二
実務経験	歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数
1	後期	1(12+2)
授業の目的		
フッ化物による齲蝕予防法について基本的事項を理解し、技術の習得に繋げる。		
行動目標		
1. フッ化物についての基本的知識を学び、各う蝕予防処置法の効果・メカニズム・施術法を理解する。 2. フッ化ジアンミン銀、小窩裂溝填塞法についての基本的事項を理解する。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」(医歯薬出版) プロジェクター
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	11月30日(4)	フッ化物によるう蝕予防(予防効果、方法、種類、管理方法)
2	12月 7日(4)	フッ化物によるう蝕予防(中毒量の計算、メンテナンス)
3	12月14日(4)	硝酸銀(フッ化ジアンミン銀)塗布法 小窩裂溝填塞法
4	2月22日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	う蝕予防処置 I	松井 馨子
実務経験	歯科衛生士免許を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	後期	1(26+2=28)
授業の目的		
う蝕予防の知識を身につけ、う蝕予防処置法を習得する。		
行動目標		
1. う蝕発生とう蝕予防処置の関係性を述べることができる。 2. フッ素の性状・代謝・毒性を理解する。 3. う蝕活動性試験の内容を述べるができる。 4. フッ化物塗布を行うことができる。 5. フッ化ジアミン銀塗布を行うことができる。 6. 小窩裂溝予防填塞を行うことができる。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書 「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」(医歯薬出版)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	1月9日(2)	カリエスの発生機序・フッ化物とは
2	1月19日(4)	フッ素の性状・代謝・毒性安全量の算出 フッ化物歯面塗布法について 基礎
3	1月24日(2)	フッ化物溶液基礎実習 基礎
4	1月26日(4)	フッ化ジアミン銀塗布法について フッ化ジアミン銀基礎実習 基礎
5	1月30日(4)	フッ化物・フッ化ジアミン銀塗布相互実習 ユニット
6	2月6日(4)	小窩裂溝填塞の基礎知識・模型実習 基礎
7	2月7日(2)	フッ化物洗口法について・フッ化物洗口実習 基礎
8	2月14日(4)	フッ化物配合歯磨剤について う蝕予防処置まとめ・復習 基礎
9	2月22日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	歯周病予防処置 I	正村 昭子
実務経験	歯科衛生士免許を有し、歯科診療所等での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	前期	1(60)
授業の目的		
疾病予防、健康増進に果たす歯科予防処置の効果を十分認識し、効果的な施術を行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
行動目標		
1. 歯石除去の流れをイメージできる。 2. 歯石除去に際しての位置関係を習得する。 3. ミラーテクニックを習得する。 4. 歯石除去に際しての観察法を理解する。 5. 歯石沈着状態の把握ができる。(エキスポローリング) 6. 歯周ポケット観察法を習得する。(プロービング)		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価、日頃の授業態度等加味し、総合的に評価する。(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	4月13日(4)	歯石除去とは 器具確認 身だしなみ 基礎知識(歯・歯周組織) 基礎
2	4月20日(4)	マネキンの扱い法 位置関係 基礎
3	4月27日(4)	ミラー基本操作法 上下顎操作法 基礎
4	5月 2日(2)	スケーリングの流れ 基礎知識(付着物・沈着物) 探針基本的操作法(把持法 運動) 基礎
5	5月 8日(4)	探針基本的操作法(把持法 運動) 基礎
6	5月16日(2)	探針基本的操作法 基礎
7	5月22日(2)	探針部位別操作法 基礎
8	6月 2日(4)	探針部位別操作法 基礎
9	6月 6日(2)	探針部位別操作法 基礎
10	6月12日(2)	プロービング目的 基本的操作法 基礎
11	6月13日(2)	プロービング部位別操作法 基礎
12	6月19日(4)	プロービング部位別操作法 基礎
13	6月20日(2)	プロービング部位別操作法 基礎
14	6月26日(4)	口腔診査相互実習(エキスポローリング) ユニット
15	6月27日(2)	口腔診査相互実習(エキスポローリング) ユニット
16	7月 7日(4)	口腔診査相互実習(エキスポローリング) ユニット
17	7月14日(6)	口腔診査相互実習(プロービング) ユニット
18	7月20日(6)	口腔診査相互実習(プロービング) ユニット

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	歯周病予防処置 I	正村 昭子
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	後期	2(96+2=98)
授業の目的		
疾病予防、健康増進に果たす歯科予防処置の効果を十分認識し、効果的な施術を行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
行動目標		
1. シックルスケーラー・キュレットスケーラーの操作法を習得する。 2. 歯石除去に際しての観察法を習得する。 3. 歯石沈着状態の把握ができる。(エクスプローリング) 4. 歯周ポケット観察法を習得する。(プロービング) 5. 歯面研磨(ポリッシング)のテクニックを習得する。 6. シックルスケーラー・キュレットスケーラーのシャープニング法を習得する。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価、日頃の授業態度等加味し、総合的に評価する。(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	9月 8日(4)	スケーラーの名称・用途・種類 シックルスケーラーの基本的操作法・模型実習 基礎
2	9月 12日(2)	シックルスケーラーの基本的操作法・模型実習 シックルスケーラー マネキン実習 基礎
3	9月19日(2)	シックルスケーラー マネキン実習 基礎
4	9月25日(2)	シックルスケーラー マネキン実習 基礎
5	10月 2日(2)	シックルスケーラー マネキン実習 基礎
6	10月 5日(4)	シックルスケーラー マネキン実習 基礎
7	10月12日(4)	キュレットスケーラーの基本的操作法・模型実習 基礎
8	10月19日(4)	キュレットスケーラー マネキン実習 基礎
9	10月23日(4)	キュレットスケーラー マネキン実習 基礎
10	11月 1日(2)	キュレットスケーラー マネキン実習 基礎
11	11月9日(4)	キュレットスケーラー マネキン実習 基礎
12	11月10日(2)	キュレットスケーラー マネキン実習 基礎
13	11月16日(4)	スケーリング マネキン実習 評価 基礎/ユニット
14	11月22日(4)	スケーリング マネキン実習総復習/シャープニング法/相互実習オリ 基礎
15	11月30日(4)	スケーリング マネキン実習総復習/シャープニング法/相互実習オリ 基礎
16	12月 7日(4)	スケーリング 相互実習(下顎前歯) ユニット
17	12月8日(2)	スケーリング 相互実習(下顎前歯) ユニット
18	12月13日(6)	スケーリング 相互実習(上顎前歯) ユニット
19	1月10日(4)	スケーリング 相互実習(下顎前歯) ユニット
20	1月17日(4)	スケーリング 相互実習(上顎前歯) ユニット
21	1月22日(4)	歯面研磨(ポリッシング)の基礎知識 模型実習 基礎
22	1月29日(4)	歯面研磨(ポリッシング) 相互実習 ユニット
23	2月 5日(4)	歯面研磨(ポリッシング) 相互実習 ユニット
24	2月 8日(4)	スケーリング 相互実習 ユニット
25	2月13日(6)	スケーリング 相互実習 総復習 ユニット
26	2月19日(6)	総復習 評価 ユニット
27	2月27日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名	
歯科衛生士科	歯科保健指導 I	呉羽かおり	
実務経験	歯科衛生士免許、専任教員認定歯科衛生士資格を有し、歯科診療所での実務経験を有する		
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	前期	1(46)	
授業の目的			
多様化するニーズに対応した歯科保健指導を行えるよう、専門知識と技術及びカウンセリング能力を身につける。			
行動目標			
1. 歯科保健指導の概要を理解する。 2. 口腔の基礎知識を理解する。 3. 口腔の観察法を習得する。 4. 自身の口腔清掃法を習得する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び実技・演習等を加味し総合的に評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論 歯科保健指導」 「歯肉を見る・歯肉を読む」 (医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月10日(2)	歯科保健指導総論	
2	4月11日(2)	健康の概念 予防の概念	
3	4月12日(2)	口腔の基礎知識	
4	4月18日(2)	口腔の基礎知識	
5	4月19日(2)	口腔の基礎知識 口腔の観察(初期病変の理解)	
6	4月28日(2)	口腔の基礎知識 口腔の観察(初期病変の理解)	
7	5月12日(2)	プラークの観察と表現方法	
8	5月15日(2)	プラークの観察と表現方法	
9	5月22日(2)	プラークの観察と表現方法	
10	5月30日(2)	プラークの観察と表現方法	
11	6月 9日(4)	歯肉の観察と表現方法 口腔観察相互実習オリエンテーション	基礎
12	6月12日(4)	口腔観察相互実習	ユニット
13	6月20日(2)	口腔観察相互実習	ユニット
14	6月23日(2)	口腔観察相互実習振り返り	基礎
15	6月30日(2)	口腔観察 基礎実習	基礎
16	7月 3日(4)	口腔観察相互実習	ユニット
17	7月 7日(2)	口腔観察相互実習振り返り	基礎
18	7月10日(4)	口腔清掃法	基礎
19	7月21日(2)	前期まとめ	

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	歯科保健指導 I	呉羽かおり
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	後期	2(84+2=86)
授業の目的	多様化するニーズに対応した歯科保健指導をおこなうために、専門知識と技術を身につける。	
行動目標	1. 口腔清掃法を習得する。 2. 自身の口腔管理ができる。 3. 保健指導実施のための基礎知識を身につける。 4. 歯科衛生過程の進め方を理解する。 5. 歯科衛生アセスメントの情報収集について理解する。	
成績評価・検定	講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び実技・演習等を加味し総合的に評価する。(60点以上得点した者を合格とする)	
教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論 歯科保健指導」 「歯肉を見る・歯肉を読む」 (医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	9月 5日(2)	前期復習 口腔清掃法(手用歯ブラシを用いたブラッシング方法の知識)
2	9月15日(4)	100%磨き実習 ユニット
3	9月22日(4)	100%磨き実習 ユニット
4	9月29日(4)	100%磨き実習 ユニット
5	10月 6日(2)	口腔清掃法(手用歯ブラシを用いたブラッシング方法の知識) 基礎
6	10月16日(2)	口腔清掃法(手用歯ブラシを用いたブラッシング方法の知識) 基礎
7	10月19日(2)	口腔清掃法(補助清掃用具を用いた口腔清掃法の知識) 基礎
8	10月23日(2)	口腔清掃法(超音波歯ブラシを用いた口腔清掃法) 口腔清掃法(歯磨剤 洗) 基礎
9	10月27日(8)	卒業研究発表会
10	10月30日(2)	卒業研究発表会振り返り 口腔清掃法まとめ 基礎
11	11月 2日(2)	歯科保健指導実施のための基礎知識
12	11月 8日(4)	歯科保健指導実施のための基礎知識
13	11月15日(2)	歯科保健指導実施のための基礎知識
14	11月17日(2)	歯科衛生過程の進め方
15	11月20日(4)	歯科衛生過程の進め方 歯科衛生アセスメント(情報収集)
16	11月27日(2)	歯科衛生アセスメント(情報収集)
17	12月 4日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理) 歯科衛生アセスメント(う蝕活動性試験の活用法)
18	12月14日(4)	歯科衛生アセスメント(口腔内写真基礎知識)(カメラの取り扱い) 基礎
19	12月15日(2)	歯科衛生アセスメント(口腔内写真撮影) 基礎
20	12月18日(2)	歯科衛生アセスメント(口腔内写真撮影) 基礎
21	1月 9日(2)	ライフステージの理解
22	1月15日(4)	青年期の基礎知識 青年期の歯科保健指導
23	1月22日(4)	青年期の歯科保健指導 妊産婦期の基礎知識
24	1月22日(2)	妊産婦期の基礎知識
25	1月29日(4)	妊産婦期の基礎知識
26	2月 6日(4)	乳児期の歯科保健指導
27	2月16日(2)	乳児期の歯科保健指導
28	2月20日(4)	乳児期の歯科保健指導 まとめ
29	2月27日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	栄養指導 I	伊藤 志織
実務経験	管理栄養士の資格を有し、栄養士としての実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	後期	2(30+2)
授業の目的		
健康は様々な栄養素が相互に関係し保たれている事を認識し、栄養に関する基礎的事項を身につけ、各ステージにおける栄養指導のポイントを理解する。		
行動目標		
1. 現在の食生活の実態把握し、食を取巻く問題点について理解する。 2. 栄養素の消化吸収のメカニズムを理解する。 3. 食事摂取基準について理解する。 4. 各栄養素について基本的事項を理解する。 5. 食生活とう蝕・咀嚼の関連性を理解する。 6. 食品の栄養学的特徴を理解する。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
歯科衛生学シリーズ「栄養と代謝」(医歯薬出版) プリント 新ビジュアル食品成分表 食品解説つき		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	9月22日(2)	栄養学を学ぶ目的・意識 栄養の基礎知識 自分の食生活診断
2	9月29日(2)	栄養素の消化吸収
3	10月6日(2)	栄養素の役割 鉄の吸収 食事摂取基準
4	10月13日(2)	食事摂取基準 摂取エネルギーを知る
5	10月20日(2)	食事摂取基準 栄養素の働き
6	11月10日(2)	糖質の種類 食品との関わり タンパク質の栄養的意味
7	11月17日(2)	タンパク質
8	11月24日(2)	脂質
9	12月1日(2)	ビタミン
10	12月8日(2)	ミネラル
11	12月15日(2)	ミネラル 水分の栄養的意味
12	1月19日(2)	食物繊維
13	1月26日(2)	咀嚼と食生活 う蝕と食生活
14	1月29日(2)	甘味食品の摂取法
15	2月6日(2)	食品の栄養学的特徴
16	2月16日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	歯科診療補助 I	正村 昭子
実務経験	歯科衛生士免許を有し、 歯科診療所・病院口腔外科等での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	前期	1(56)
授業の目的		
歯科診療補助業務を理解し、実践するための知識と技術を習得する。		
行動目標		
1. 歯科診療補助の法的位置づけを説明し、内容を述べることができる。 2. 歯科医院の診療の流れを理解する。 3. 医療安全の意味を理解する。 4. 共同動作(ポジショニング、バキュームテクニック、ライティング、受け渡し)を理解し、口腔洗浄ができる。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 歯科機器」 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 歯科材料」 「デンタルスタッフのクリニカルマナー」 (医歯薬出版)		
回数	月日(時間数)	授業内容
1	4月10日(2)	歯科診療補助の法的位置づけ
2	4月12日(2)	歯科診療所でのマナー 歯科医院の診療の流れ 歯科衛生士の役割
3	4月14日(2)	歯科診療所でのマナー 歯科医院の診療の流れ 歯科衛生士の役割
4	4月17日(2)	歯科診療所でのマナー 歯科医院の診療の流れ 歯科衛生士の役割
5	4月18日(2)	医療安全と感染予防対策 手指消毒 基礎
6	4月24日(4)	医療安全と感染予防対策 手指消毒 滅菌と消毒 歯科診療室の基礎知識 基礎
7	5月12日(2)	滅菌と消毒 歯科診療室の基礎知識・診療室の機械器具取扱い 基礎
8	5月15日(2)	歯科診療室の基礎知識・診療室の機械器具取扱い 基礎/ユニット
9	5月23日(2)	診療室の機械器具取扱い実習 実習室マニュアル 基礎/ユニット
10	5月26日(2)	診療室の機械器具取扱い実習 実習室マニュアル 基礎
11	5月29日(4)	共同動作の基礎知識(概念 ポジショニング ライティング 受渡し バキューム・3way操作) 基礎/ユニット
12	6月 5日(4)	共同動作の基礎知識(概念 ポジショニング ライティング 受渡し バキューム・3way操作) 基礎/ユニット
13	6月16日(4)	共同動作の基礎知識(概念 ポジショニング ライティング 受渡し バキューム・3way操作) ユニット
14	6月23日(4)	共同動作基礎実習 ユニット
15	6月29日(4)	共同動作相互実習 ユニット
16	7月 6日(4)	共同動作相互実習 ユニット
17	7月 13日(4)	共同動作相互実習 ユニット
18	7月18日(2)	前期まとめ 基礎
19	7月21日(4)	共同動作 総合実習 ユニット

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科診療補助 I	正村 昭子
1		後期	2(88+2=90)
授業の目的			
歯科診療補助業務を理解し、実践するための知識と技術を習得をする。			
行動目標			
1. 診査項目が理解できる。 2. アルジネート印象材の練和ができる。 3. 主要歯科材料を取り扱うことができる。 4. 保存修復の処置流れを説明できる。 5. 歯内療法処置の流れを説明できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科機器」 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科材料」 「デンタルスタッフのクリニカルマナー」 (医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 4日(2)	前期復習	
2	9月 8日(2)	主要歯科材料の種類と取扱い法(歯科材料の基礎知識・印象材)	基礎
3	9月 11日(2)	主要歯科材料の種類と取扱い法(歯科材料の基礎知識・印象材) アルジネート印象材	基礎
4	9月 14日(4)	アルジネート印象材取扱い法	基礎
5	9月28日(4)	アルジネート印象材取扱い法	基礎
6	10月 10日(2)	仮封材とは 種類と特徴 仮封材の取扱い法	基礎
7	10月 13日(2)	仮封材の取扱い法	基礎
8	10月16日(2)	仮封材の取扱い法	基礎
9	10月17日(2)	仮封材の取扱い法	基礎
10	10月20日(2)	合着材とは 種類と特徴 / 合着材の取扱い法	基礎
11	10月23日(2)	合着材とは 種類と特徴 / 合着材の取扱い法	基礎
12	10月26日(4)	合着材の取扱い法	基礎
13	11月2日(2)	診査基礎知識	基礎
14	11月6日(4)	硬組織診査相互実習	ユニット
15	11月13日(4)	硬組織診査相互実習	ユニット
16	11月15日(2)	硬組織診査相互実習	ユニット
17	11月24日(2)	硬組織診査相互実習	ユニット
18	11月29日(2)	保存修復の処置流れ	基礎
19	12月1日(2)	直接修復法とは/直接修復法の流れ 使用材料	基礎
20	12月6日(2)	直接修復法の流れ 使用材料	基礎
21	12月11日(4)	直接修復法の流れ 使用材料	基礎
22	12月15日(2)	直接修復法の流れ 使用材料 / 間接修復法とは	基礎
23	12月18日(2)	間接修復法とは / 間接修復法の流れ	基礎
24	1月 15日(4)	間接修復法の流れ 使用材料	基礎
25	1月16日(2)	間接修復法の流れ 使用材料	基礎
26	1月23日(4)	間接・直接修復復習	基礎
27	1月31日(2)	歯内療法の処置流れ / 歯髄保存療法とは 流れと使用薬材	基礎
28	2月2日(4)	歯髄保存療法とは 流れと使用薬材 / 歯髄除去療法(麻酔抜髄法の流れと使用器材)	基礎
29	2月5日(2)	歯髄除去療法(麻酔抜髄法の流れと使用器材)	基礎
30	2月9日(4)	感染根管療法の流れと使用機材	基礎
31	2月15日(4)	歯内療法総復習	基礎
32	2月21日(4)	復習・まとめ	基礎
33	2月26日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	情報処理 I	小野 恵子
実務経験	サーティファイWord文書処理技能認定資格を有し、企業にて事務、HP作成管理、システム開発等の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	後期	1(30)
授業の目的		
現在の情報化社会において歯科衛生士業務を展開するにあたってのパソコン操作の基本的事項を身につけ、業務記録、患者管理、研究、症例発表等に活かす。		
行動目標		
1. タッチタイピングの習得と、Word2013の操作方法をマスターし、一般的な書類が作成できる。 2. PowerPoint2013を使用して、簡単なプレゼンテーション資料を作成する。		
成績評価・検定		
Word講義終了時に行う試験(60分テキスト使用可)の得点に、PowerPoint講義終了時に行うプレゼンテーションの得点を10%、授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		完全マスターWord 2019練習問題全308(noa出版) USBメモリー 30時間でマスタープレゼンテーション+パワーポイント2019(実教出版) 201教室
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	9月 5日(2)	Word;起動・終了 文字の入力と変換 タッチタイピング
2	9月12日(2)	文書の作成 文書の装飾
3	9月19日(2)	ビジネス文書①
4	9月26日(2)	ビジネス文書②
5	10月 3日(2)	ビジネス文書③
6	10月10日(2)	文書の利用方法 文書作成に便利な機能
7	10月17日(2)	グラフィックの挿入
8	10月24日(2)	復習と確認
9	10月31日(2)	Wordテスト
10	11月 7日(2)	Wordテスト解説 プレゼンテーションとは PowerPointの基本操作
11	11月14日(2)	Power Pointの特徴的な機能
12	11月21日(2)	PowerPointを使用した資料作成①
13	11月28日(2)	PowerPointを使用した資料作成②
14	12月 5日(2)	プレゼンテーション
15	12月12日(2)	プレゼンテーション

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	コミュニケーション I	松井 秀夫
実務経験	キャリアカウンセラー資格を有しNPO法人にてカウンセルの経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	前・後期	2(40)
到達目標		
<p>歯科衛生士は、チーム医療の一員として、また歯科医師へのサポートや患者への様々なアドバイスを行うためにも、「コミュニケーション能力」が非常に重要です。本授業では「EQ」理論をベースに、自己のコミュニケーション能力の現状を受け止め、あるべき能力開発の必要性を理解し、実践していくための知識、手法などを習得します。</p>		
行動目標		
<p>1. EQ理論を学び、自己分析や他者理解のための素養を学ぶ 2. コミュニケーションのしくみや知識を習得する 3. 「コミュニケーション能力」を高めるための手法を実践する</p>		
成績評価・検定		
<p>期末課題70%、授業中の発表20%、授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)</p>		
教科書・参考書		
レジュメ SEQアセスメント EQ(感じる力)の磨き方(東洋経済新報社)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	4月10日(2)	オリエンテーション(自己紹介、授業の主題、進め方など)
2	4月17日(2)	「コミュニケーション能力とは何か」
3	4月24日(2)	「SEQ」受験
4	5月 1日(2)	「コミュニケーションと感情」
5	5月 8日(2)	「EQとは何か」
6	5月15日(2)	「SEQのフィードバック」
7	5月22日(2)	「SEQの自己分析」～心内知性～
8	5月29日(2)	「SEQの自己分析」～対人関係知性～
9	6月 5日(2)	「SEQの自己分析」～状況判断知性～
10	6月12日(2)	「言語コミュニケーションスキル」
11	6月19日(2)	「非言語コミュニケーションスキル」
12	6月26日(2)	「EQ開発の手法を学ぶ①」
13	7月 3日(2)	「EQ開発の手法を学ぶ②」
14	7月10日(2)	EQカレンダーを作る
15	7月24日(2)	「EQ開発の目標」の発表
16	9月 4日(2)	特別授業「言葉とコミュニケーション」(仮) ゲスト講師
17	9月11日(2)	「歯科衛生士の仕事とコミュニケーション」
18	9月25日(2)	「社会人としての働き方を考える」
19	10月 2日(2)	「コミュニケーション I」の振り返り
20	10月16日(2)	期末課題レポート作成・提出

|

|

|

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	臨地臨床実習 I	正村 昭子
実務経験	歯科衛生士免許を有し、 歯科診療所・病院口腔外科等での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
1	前期	1(40+6=46)
授業の目的		
歯科医療の現場を体験することにより歯科衛生士の職に対するイメージを確立し、医療人を目指す者としての意識の高揚を図り、今後の学習に繋げる		
行動目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医院での一日の流れを把握し、歯科衛生士の業務を理解する。 2. 歯科治療に対する理解を深め、その後の学習の理解を促す。 3. 医療人に求められる素養について理解し、自分の行動を振り返り、その後の学校生活での実践に繋げる。 		
成績評価・検定		
実習記録及びまとめ、報告会で理解度を確認し、評価に替える。		
教科書・材料当		
週	月日(時間数)	授 業 内 容
13	6月30日(4)	実習オリエンテーション
14	7月3日・4日(4)	実習準備
15	7月10日・11日(4)	実習準備
16	7月20日(2)	実習準備
17	7月24日(2)	実習準備
18	7月31日～8月4日(40)	歯科診療所実習
21	8月25日(6)	実習まとめ報告会

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	衛生学・地域保健学	小林 良清
実務経験	医師免許を有し、県福祉事務所長等の実務経験を有する	
学 年	単位数(時間数)	
2	前期・後期	2(30+2)
授業の目的		
健康と疾病のとらえ方、健康の保持増進法、疾病予防法について学び、地域保健活動の基礎的知識を身につける。		
行動目標		
1. 衛生学の基本的事項について理解し、広い視野から地域保健活動を捉えることができる。 2. 人口動態に関する基本的事項が理解できる。 3. 環境保全に関する基本的事項が理解できる。 4. 疫学に関する基本的事項が理解できる。 5. 感染症に関する基本的事項が理解できる。 6. 食品衛生に関する基本的事項が理解できる。 7. 母子保健に関する基本的事項が理解できる。 8. 学校保健に関する基本的事項が理解できる。 9. 成人・老人保健に関する基本的事項が理解できる。 10. 産業保健に関する基本的事項が理解できる。 11. 精神保健に関する基本的事項が理解できる。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書 歯科衛生学シリーズ「保健生態学」「保健情報統計学」		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	7月5日(2)	総論(定義 健康の概念 ヘルスプロモーション)
2	7月11日(2)	疫学(定義 概要 方法)
3	7月18日(2)	人口に関する統計 人口動態調査 生命表
4	7月19日(2)	健康と環境(概念 環境と健康)
5	7月25日(2)	健康と環境(概念 環境と健康)
6	9月12日(2)	感染症(感染と発病 感染の三大要因 感染予防 おもな感染症の動向と予防)
7	9月19日(2)	食品と健康(食品保健 栄養と健康)
8	9月26日(2)	地域保健・公衆衛生(概念 活動の進め方)
9	10月6日(2)	母子保健(意義・保健統計・母性保健管理・小児保健管理・母子保健対策)
10	10月13日(2)	学校保健(意義・活動と組織 学校保健活動の推進 食育)
11	10月17日(2)	成人保健(現状・保健活動)健康活動と公衆衛生
12	10月24日(2)	産業保健(概念 職業性疫病 産業保健管理 産業保健活動)
13	11月10日(2)	老人(高齢者)保健(概念 職業性疫病 産業保健管理 産業保健活動)
14	11月21日(2)	精神保健(意義・分類・心の健康と障害 ライフサイクル 精神保健対策)
15	11月27日(2)	災害時の歯科保健(大規模災害時の保健医療対策)
16	12月18日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	社会福祉	畠山 仁美
実務経験	看護師・助産師・介護福祉士免許を有し、社会福祉事務所等での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
2	後期	1(14+2)
授業の目的		
急速に変化する社会保障・福祉制度について理解を深め、社会のニーズをふまえた対応をする為の基礎知識を習得する。		
行動目標		
1. 各対象に対する社会保障・福祉制度の概要を理解する。 2. 社会福祉分野での歯科衛生士業務の実態を理解する。 3. 介護・福祉の対象となる方について理解を深め対応法を学ぶ。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書 歯科衛生学シリーズ「保健 医療 福祉の制度」(医歯薬出版)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	10月26日(2)	社会保障とは 喪失体験
2	11月 2日(2)	社会保険制度 コミュニケーション技術(ロールプレ)
3	11月 9日(2)	医療保険制度 コミュニケーション技術(ロールプレ)
4	11月16日(2)	介護保険制度概要 小規模多機能型施設DVD視聴
5	11月30日(2)	介護保険制度(認定 専門職) 年金保険制度 認知症高齢者と家族DVD視聴「ハルさんの物語」
6	12月 7日(2)	労働保険制度 社会福祉(福祉六法～生活保護) 認知症高齢者と家族DVD視聴「ハルさんの物語第2部」
7	12月14日(2)	児童と家庭の福祉制度と法規 障害者自立支援法 障害者差別解消法 老人福祉法 認知症啓発DVD 「一人の心を見つめるケア」
8	12月19日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	口腔外科学・歯科麻酔学	横林 敏夫
実務経験	歯科医師免許を有し、総合病院口腔外科部長としての実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
2	前期	2(34+2)
授業の目的		
口腔外科領域における主な疾病について病態・治療法を理解するとともに、全身疾患との関連性についても理解を深め、口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する。		
行動目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔外科領域の主な疾患について理解する。 2. 口腔外科治療の流れを理解する。 3. 口腔外科小手術について理解する。 4. 歯科口腔外科領域の麻酔について理解する。 5. 救急蘇生法について理解する。 6. 滅菌と消毒について基礎的知識を身につけ対応できる。 7. 口腔外科領域で使用する器材・薬剤について概要を理解できる。 8. 歯科麻酔学、救急蘇生法の概要を理解する。 9. 口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する。 		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		歯科衛生学シリーズ「口腔外科・麻酔学」(医歯薬出版) PC プロジェクター
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	4月11日(2)	口腔領域の発育異常と奇形変形
2	4月18日(2)	口腔領域の発育異常
3	4月25日(2)	口腔領域の損傷
4	5月2日(2)	口腔粘膜疾患
5	5月9日(2)	口腔領域の炎症
6	5月16日(2)	口腔領域の嚢胞—顎骨内に発生する嚢胞
7	5月23日(2)	口腔領域の嚢胞—軟組織に発生する嚢胞
8	5月30日(2)	口腔領域の腫瘍—軟組織に発生する良性腫瘍
9	6月6日(2)	口腔領域の腫瘍—悪性腫瘍 腫瘍類似疾患
10	6月13日(2)	顎関節疾患
11	6月20日(2)	唾液腺疾患
12	6月23日(2)	口腔領域の神経性疾患
13	6月27日(2)	血液疾患 口腔外科の小手術
14	7月4日(2)	口腔外科小手術 歯科麻酔
15	7月7日(2)	歯科麻酔(局所麻酔 全身麻酔)
16	7月11日(2)	歯科治療時における全身的合併症
17	7月18日(2)	救急蘇生法
18	7月26日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	歯科矯正学	竹内 誠
実務経験	歯科医師免許を有し、歯科診療所開業の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
2	後期	2(32+2)
授業の目的		
矯正治療の目的や不正咬合の弊害を理解し、頭部顎顔面領域並びに歯列の成長発育についての知識を身につける。また、矯正治療における歯科衛生士の担う役割を認識し、患者管理・指導ができる基礎知識を身につける。		
行動目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 頭部・顎顔面の成長発育について理解する。 2. 咬合及び不正咬合について理解し、さらにその原因について理解を深める。 3. 様々な口腔習癖について理解する。 4. 矯正治療の生物力学について理解を深める。 5. 矯正治療における診査診断について理解する。 6. 矯正装置及び治療法さらに保定について理解する。 7. 矯正治療に使用する器材について理解する。 8. 矯正治療における歯科衛生士の役割について理解する。 9. 矯正治療における患者管理及び指導のポイントを理解する。 		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」(医歯薬出版) 矯正用傷器材 PC プロジェクター		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	10月 5日(4)	歯科矯正治療総論(治療の実際 目的・流れ・必要性、利益とリスク)
2	10月12日(4)	成長発育(身体の成長発育、頭蓋・顎顔面の成長発育、歯・歯列の成長発育、口腔機能の発達)
3	10月19日(4)	正常咬合と不正咬合(咬合とは、正常咬合の概念 下顎位と咬合位 下顎運動 個々の歯の位置異状、歯列弓の異状、上下歯列弓関係の不正、不正咬合状態)
4	11月 2日(4)	不正咬合の分類・原因・予防 歯科矯正治療と力 歯の移動と固定 歯の移動と組織反応
5	11月 9日(4)	歯の移動病理 矯正力の作用時間 歯の移動様式 矯正力と顎整形力 保定 矯正装置(可撤式装置)
6	11月16日(4)	矯正装置(固定式装置 機能的矯正装置 拡大装置 顎外固定装置 口腔習癖除去装置 保定装置)
7	11月30日(4)	矯正歯科診断 矯正歯科治療における診断 診断に必要な検査 症例分析(模型分析 セファロ分析) 非拔牙治療と拔牙治療
8	12月 7日(4)	矯正歯科用器具と取扱い 歯科矯正用材料と使用方法 まとめ
9	12月15日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	う蝕予防処置Ⅱ 臨地臨床実習Ⅱ	塚原 実佳
実務経験	歯科衛生士免許・専任教員認定歯科衛生士資格を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
2	後期	2(40+2+実習10=52)
授業の目的		
安全かつ効果のあるう蝕予防処置を行うために、効果的なう蝕予防法を計画することができる知識を身に付け、う蝕予防処置の的確な技術を習得する。		
行動目標		
1. う蝕予防法を述べることができる。 2. う蝕予防処置の方法を列挙できる。 3. フッ化物局所塗布の集団応用についての知識を身につける。 4. フッ化物局所塗布の集団応用法を立案し実施する。 5. 小児へのフッ化物局所塗布を行うことができる。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
最新歯科衛生士教本「歯科予防所論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」(医歯薬出版)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	9月1日(2)	う蝕予防処置基礎知識復習
2	9月4日(2)	う蝕予防処置基礎知識復習
3	9月6日(4)	う蝕予防処置の集団応用基礎知識
4	9月13日(4)	う蝕予防処置の集団応用基礎知識 フッ化物塗布集団応用の計画立案
5	9月20日(2)	フッ化物局所塗布法の集団応用法の演習
6	9月27日(4)	フッ化物局所塗布法の集団応用法の演習
7	10月4日(4)	フッ化物局所塗布法の集団応用法の演習 / 幼稚園実習オリ
8	10月11日(4)	幼稚園見学実習
9	10月19日(4)	フッ化物塗布相互実習 ユニット
10	10月25日(2)	小児へのフッ化物塗布応用法の計画・準備品 (幼稚園実習計画・準備品リスト作製) 基礎・ユニット
11	10月30日(2)	小児へのフッ化物塗布法の演習(幼稚園実習ロールプレ) 基礎・ユニット
12	11月8日(4)	幼稚園実習準備 基礎・ユニット
13	11月14日(4)	幼稚園実習準備
14	11月22日(6)	幼稚園実習
15	11月29日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	歯周病予防処置Ⅱ	高地 亜弥
実務経験	歯科衛生士免許を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
2	前期	2(84)
授業の目的		
疾病予防、健康増進に果たす歯科予防処置の効果を十分認識し、1年次に習得したシクルスケーラーにプラスして、キュレットスケーラーの操作法を習得し、一連の流れの中でのアプローチ・施術が出来るようにする。		
行動目標		
1. キュレットスケーラーの操作法を習得する。 2. 歯石除去に際しての観察法を再確認する。 3. 短時間で確実な歯石沈着状態の把握ができる。(エキスポローリング) 4. 短時間で確実な歯周ポケット観察法を習得する。(プロービング) 5. キュレットスケーラーのシャープニング法を習得する。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書 最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	4月12日(4)	歯石除去の流れの確認、シクルスケーラーの操作法 基礎
2	4月17日(2)	キュレットスケーラー種類 基本的操作法復習 基礎
3	4月19日(4)	キュレットスケーラー部位別操作法43-33 基礎
4	4月25日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法13-23 キュレットスケーラー部位別操作法44-47 基礎
5	4月26日(4)	キュレットスケーラー部位別操作法実習 34-37 基礎
6	5月1日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法実習 14-17 基礎
7	5月10日(4)	キュレットスケーラー部位別操作法実習 24-27 基礎
8	5月15日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法実習総復習 基礎
9	5月17日(4)	キュレットスケーラー部位別操作法実習復習 診査復習 キュレットスケーラーシャープニング 基礎
10	6月1日(4)	マネキン評価 基礎・ユニット
11	6月2日(2)	相互実習オリエンテーション 基礎
12	6月7日(4)	診査相互実習1(硬組織 プローリング エキスポローリング) ユニット
13	6月14日(4)	診査相互実習2(硬組織 プロービング エキスポローリング) ユニット
14	6月19日(2)	キュレット相互実習1 ユニット
15	6月21日(4)	キュレット相互実習1 ユニット
16	6月26日(2)	キュレット相互実習2 ユニット
17	6月28日(4)	キュレット相互実習2 ユニット
18	7月3日(4)	キュレット相互実習3 ユニット
19	7月5日(6)	キュレット相互実習4 ユニット
20	7月10日(4)	キュレット相互実習5 ユニット
21	7月12日(4)	キュレット相互実習6 ユニット
22	7月19日(6)	キュレット相互実習 総復習評価 ユニット
23	7月20日(2)	PMTC基礎実習 基礎
24	7月21日(2)	PMTC相互実習 ユニット
25	7月25日(4)	PMTC相互実習 ユニット

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科保健指導Ⅱ	塚原 実佳
実務経験		歯科衛生士免許・専任教員認定歯科衛生士資格を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		前期	2(80)
授業の目的			
多様化するニーズに対応した歯科保健指導をおこなうために、歯科衛生過程の知識と技術を習得する。			
行動目標			
1. 正しく情報収集をすることができる。 2. 情報に基づいた対象の把握ができる。 3. 対象者に応じた歯科保健指導計画を立案することができる。 4. 対象者に適した口腔清掃指導ができる。 5. 口腔の変化について観察・評価ができる。 6. 症例検討・発表の仕方を理解する。 7. 業務記録の目的を理解し、記録方法を学ぶ。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 「歯肉を見る・歯肉を読む」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月10日(2)	2年前期保健指導について 歯科衛生アセスメント復習 情報収集(ブランクコントロール 主観的情報)	
2	4月14日(2)	歯科衛生アセスメント復習 情報収集(ブランクコントロール 客観的情報)	
3	4月18日(2)	歯科衛生アセスメント復習 情報収集(ブランクコントロール 客観的情報)	
4	4月28日(4)	歯科衛生アセスメント復習 (情報処理) 歯科衛生過程 診断・計画	
5	5月1日(2)	口腔内写真知識復習	基礎
6	5月2日(2)	歯科衛生アセスメント(口腔内写真撮影相互実習)	ユニット
7	5月8日(2)	歯科衛生アセスメント(口腔内写真撮影相互実習)	ユニット
8	5月12日(2)	業務記録(目的・方法) 歯科衛生過程相互実習オリエンテーション	
9	5月25日(4)	歯科衛生相互実習① (情報収集)	ユニット
10	5月26日(4)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析) 歯科衛生診断の実際 歯科衛生計画の実際	
11	5月31日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)、歯科衛生診断の実際 歯科衛生計画の実際	
12	6月2日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)、歯科衛生診断の実際 歯科衛生計画の実際	
13	6月9日(6)	歯科衛生相互実習② (介入)	ユニット
14	6月15日(4)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)の実際	
15	6月16日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)の実際	
16	6月22日(4)	歯科衛生相互実習③ (介入)	ユニット
17	6月23日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)の実際	
18	6月26日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)の実際	
19	6月30日(6)	歯科衛生相互実習④ 歯科衛生評価	ユニット
20	7月6日(4)	歯科衛生過程発表準備(オリ) 歯科衛生過程相互実習発表準備	
21	7月7日(2)	歯科衛生過程相互実習発表準備	
22	7月10日(2)	歯科衛生過程相互実習発表準備	
23	7月13日(2)	歯科衛生過程相互実習発表準備	
24	7月14日(4)	歯科衛生過程相互実習発表	
25	7月20日(4)	歯科衛生過程相互実習発表	
26	7月21日(2)	歯科衛生過程相互実習発表	
27	7月24日(4)	歯科衛生過程相互実習発表 歯科衛生過程相互実習まとめ	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科保健指導Ⅱ	塚原 実佳
学 年		学 期	単位数(時間数)
2		後期	1(56+2=58)
授業の目的			
多様化するニーズに対応した歯科保健指導をおこなうために、各ライフステージにおける歯科衛生過程の知識と技術を習得する。。			
行動目標			
1. ライフステージごとの生活習慣・食習慣の把握ができる。 2. ライフステージにあわせた歯科衛生計画立案ができる。 3. ライフステージごとの口腔清掃法、栄養指導のポイントを説明することができる。 4. 食習慣と口腔保健の関連について理解する。 5. 歯科保健指導におけるコミュニケーションについて理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 「歯肉を見る・歯肉を読む」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 5日(2)	歯科衛生過程の進め方復習 演習方法と書面化	
2	9月 8日(2)	学齢期の歯科保健指導の知識	
3	9月 11日(4)	学齢期の歯科保健指導の知識	
4	9月19日(2)	学齢期の歯科保健指導の知識 演習	
5	9月25日(4)	学齢期の歯科保健指導の演習	
6	10月 2日(2)	幼児期の歯科保健指導の知識	
7	10月10日(2)	幼児期の歯科保健指導の知識	
8	10月 20日(2)	幼児期の歯科保健指導の知識	
9	10月23日(2)	幼児期の歯科保健指導の知識	
10	10月27日(8)	卒業研究発表会	
11	11月 1日(4)	成人期の歯科保健指導の知識	
12	11月 7日(2)	成人期の歯科保健指導の知識	
13	11月17日(2)	成人期の歯科保健指導の知識	
14	11月 21日(2)	成人期の歯科保健指導の知識	
15	11月24日(4)	成人期の歯科保健の演習	
16	11月27日(4)	成人期の歯科保健の演習	
17	12月 4日(2)	成人期の歯科保健の演習	
18	12月11日(4)	成人期の歯科保健の演習	
19	12月 13日(2)	歯科衛生過程まとめ	
20	12月 20日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科診療補助Ⅱ	高地 亜弥
実務経験		歯科衛生士免許を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	前期	2(78)	
授業の目的			
歯科診療における補助業務を理解し実践するため、歯科診療および治療の流れを理解し、必要な手技を身につける。			
行動目標			
1. 共同動作のポイントをを理解し、実践できる。 2. 使用頻度の高い歯科材料の特性を理解し、適正に取り扱うことができる。 3. 適正な時間内に正確な口腔内診査を行うことができる。 4. スタディーモデルの作製のための印象採得及び模型作製ができる。 5. 補綴処置、外科処置の流れを理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」 「歯科材料の知識と取扱い」「歯科器械の知識と取扱い」 (医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月 11日(4)	1年時の復習 2年時の授業の流れ	
2	4月13日(4)	保存修復・歯内療法処置流れ復習	
3	4月24日(2)	保存修復・歯内療法処置流れ復習	
4	4月27日(2)	保存修復・歯内療法処置流れ復習歯肉排除 圧排・隔壁含む	
5	5月 1日(2)	レントゲン撮影実習に向けて	ユニット・基礎
6	5月 9日(2)	レントゲン撮影実習に向けて	基礎
7	5月12日(2)	レントゲン撮影実習まとめ	
8	5月16日(2)	診査 医療面接	基礎
9	5月22日(2)	診査 硬組織診査	基礎
10	5月23日(2)	診査 硬組織診査	基礎
11	5月29日(2)	診査相互実習	ユニット
12	5月30日(2)	診査相互実習	ユニット
13	5月31日(2)	診査相互実習	ユニット
14	6月5日(2)	歯周外科処置流れ	基礎
15	6月 8日(4)	歯周外科処置流れ	基礎
16	6月12日(2)	補綴処置流れ 支台築造	基礎
17	6月13日(2)	補綴処置流れ クラウン・ブリッジ	基礎
18	6月16日(4)	補綴処置流れ クラウン・ブリッジ	基礎
19	6月20日(2)	補綴処置流れ クラウン・ブリッジ	基礎
20	6月23日(2)	補綴処置流れ PD・FD	基礎
21	6月29日(4)	補綴処置流れ PD・FD	基礎
22	7月 4日(2)	抜歯の処置流れ	基礎
23	7月 6日(4)	抜歯の処置流れ 難抜歯の処置流れ	基礎
24	7月11日(2)	外科処置の流れ	基礎
25	7月12日(4)	前期復習	基礎
26	7月14日(4)	スタディーモデル基礎知識(印象材取り扱い/石膏の取り扱い含む)	基礎
27	7月18日(2)	スタディーモデル印象採得	ユニット
28	7月21日(2)	スタディーモデル印象採得	ユニット
29	7月24日(4)	スタディーモデル印象採得 スタディモデル台付け	ユニット・基礎

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		歯科診療補助Ⅱ	高地 亜弥
実務経験		歯科衛生士免許、歯周病認定衛生士資格を有し歯科診療所での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	後期	1(60+2=62)	
授業の目的			
歯科診療における診療補助業務を理解し実践するために、歯科診療と歯科治療の流れを十分理解し必要な手技について習得する。			
行動目標			
1. 診療の流れを理解し、患者への配慮ができる。 2. 各処置について順序立てたセッティングができる。 3. 各処置流れに対応したスムーズな診療補助法について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」 「歯科材料の知識と取扱い」「歯科器械の知識と取扱い」 (医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月1日(2)	診療の流れと患者配慮	
2	9月4日(2)	ラバーダム防湿の基礎知識	基礎
3	9月7日(2)	ラバーダム防湿の模型実習	基礎
	9月8日(2)	ラバーダム防湿の模型実習	基礎
4	9月12日(4)	ラバーダム防湿実習	ユニット
5	9月21日(4)	保存修復(直接法修復)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
	9月22日(2)	保存修復(直接法修復)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
6	9月28日(4)	保存修復(直接法修復)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
7	9月29日(2)	歯内療法(歯髄除去療法)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
8	10月6日(4)	歯内療法(歯髄除去療法)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
9	10月20日(2)	歯内療法(根管治療・根管充填)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
10	10月25日(2)	歯内療法(根管治療・根管充填)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
11	11月7日(2)	歯内療法(根管治療・根管充填)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
12	11月13日(2)	歯科補綴(支台築造)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
13	11月14日(4)	歯科補綴(支台築造)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
14	11月21日(4)	歯科補綴(形成印象 装着)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
15	11月24日(2)	歯科補綴(形成印象 装着)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
16	11月27日(2)	歯科補綴(形成印象 装着)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
17	11月29日(2)	歯科補綴(形成印象 装着)のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
18	12月1日(2)	抜歯・難抜歯のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
19	12月6日(2)	抜歯・難抜歯のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
20	12月12日(4)	歯周外科処置のセッティング 歯科衛生士の役割 小児歯科のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
21	12月13日(2)	後期復習	基礎
22	12月19日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	摂食嚥下	五島秀樹 清水美希
実務経験	歯科医師免許を有し、総合病院口腔外科での実務経験を有する 歯科衛生士免許を有し、総合病院口腔外科での実務経験を有する	
学 年		単位数(時間数)
2	後期	2(36+4+2=42)
授業の目的		
要介護高齢者について理解した上で、食物摂取や嚥下に関する諸器官の機能回復及び保持増進について学び、歯科衛生士の専門性を活かした口腔ケアができるようにする。		
行動目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物摂取や嚥下に関する諸器官の機能・メカニズムを理解する。 2. 食物、食物の形態を学び正しい摂食・嚥下法を学習する。 3. 高齢者・要介護者に対する口腔機能向上を含めた口腔ケアができるようになる。 4. 病院における口腔ケアの必要性を理解する。 		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション (医歯薬出版) PC プロジェクター 演習用器材		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	9月4日(4)	中枢神経の機能 リハビリテーション総論
2	9月11日(4)	食べる仕組み 口腔の構造 咀嚼筋の構造 唾液の作用 嚥下の5期 嚥下の仕組み
3	9月25日(4)	摂食嚥下とは 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生ケアプロセス 嚥下リハビリテーションと口腔ケア
4	10月2日(4)	摂食嚥下における間接・直接訓練 摂食嚥下に対する食指導・食支援 リスクマネジメント 摂食嚥下リハビリテーションにおける連携
5	10月16日(4)	摂食嚥下の仕組み
6	10月23日(4)	直接訓練法(開閉口 口腔周囲・舌筋 頬 咀嚼・送り込み アイスマッサージ 呼吸訓練 排痰法)
7	10月30日(4)	直接訓練法 頸部聴診法
8	11月6日(4)	嚥下食 直接訓練(代償的訓練法) 口腔ケア
9	11月13日(4)	口腔ケアの実際手技・器材 (清水美希先生) ユニット
10	11月20日(4)	口腔ケアの実際手技・器材の取組みと実践の場 周術期口腔ケア
11	12月15日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	介護学	畠山 仁美
実務経験	看護師・助産師・介護福祉士免許を有し、社会福祉事務所等での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
2年	後期	1(12+2)
授業の目的		
体験により高齢者の身体的特徴を理解する。また、基本的介護法を習得する。		
行動目標		
1. 高齢者の身体的特徴を理解する。 2. 演習により被介護者について理解する。 3. 基本的な介護法を習得する。		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		
歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」(医歯薬出版) 演習用器材		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	10月26日(2)	介護の基本的な考え方 法的根拠に基づく介護
2	11月 2日(2)	高齢者の身体的特徴 高齢者疑似体験 DVD「小規模多機能居宅介護」
3	11月 9日(2)	介護技術基本編 ①麻痺についての理解(立ち方 歩き方) ②視覚障害者の理解 ③ボディメカニックスの理解
4	11月16日(2)	介護技術 ①車椅子の介助法 ②杖歩行の介助法
		実習室
5	11月30日(2)	介護技術「衣服の着脱介助」 演習「元気な人の着方 右麻痺の人の着脱介助」
6	12月 7日(2)	運動の重要性と廃用症候群 DVD「認知症高齢者啓発ビデオ」
7	12月19日(2)	試験

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	情報処理Ⅱ	小野恵子
実務経験	サーティファイExcel計算処理技能認定資格を有し、企業にて事務、HP作成管理、システム開発等の実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
2	前期	1(30)
授業の目的		
表計算ソフトExcel2016の基本的操作をマスターし、一般的な書類が作成できるよう学習する。		
行動目標		
エクセルの基本操作が出来る		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験(60分うち30分テキスト使用可)の得点に、日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		繰返して慣れる！完全マスターExcel2019練習問題334題 (noa出版) USBメモリー 201教室
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	4月11日(2)	Excelの基本操作 データのダウンロード
2	4月18日(2)	表の作成 印刷
3	4月25日(2)	ビジネスで使用する計算 相対参照、絶対参照
4	5月 2日(2)	関数の利用
5	5月 9日(2)	関数の利用
6	5月16日(2)	関数の利用
7	5月23日(2)	さまざまな書式
8	5月30日(2)	復習と確認
9	6月 6日(2)	グラフの作成
10	6月13日(2)	データ分析 並べ替えとフィルター
11	6月20日(2)	シートの活用
12	6月27日(2)	Excelの活用
13	7月 4日(2)	復習と確認
14	7月11日(2)	テスト
15	7月18日(2)	テスト解説

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	歯科医療保険事務	塚原 実佳
実務経験	歯科衛生士免許、専任教員認定衛生士資格を有し歯科診療所での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
2	後期	2(48)
授業の目的		
医療従事者として必要な医療保険の基礎知識、診療録の整理、診療報酬請求事務について習得する。		
行動目標		
1. 社会保険のしくみを理解する 2. 医療保険制度を理解する 3. カルテの書き方を理解する 4. 歯科保険請求事務ができる		
成績評価・検定		
講義終了時に行う試験結果に歯科医療事務技能試験(学科:実技)の結果を加味し理解度を判定し、総合的に評価する。		
教科書・参考書 歯科医療事務テキスト(日本医療事務センター)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	9月 7日(2)	医療事務とは 充填 画像診断の算定方法
2	9月 8日(2)	Inの算定方法 Pul FCK 投薬の算定方法
3	9月13日(4)	Per 築造 ジャケット冠の算定方法
4	9月16日(2)	投薬 吸入鎮静法の算定方法 その他の処置 歯冠修復の算定方法
5	9月21日(2)	歯周疾患の算定方法
6	9月22日(2)	Brの算定方法 部分床義歯の算定方法 全部床義歯の算定方法
7	9月26日(2)	その他の算定方法
8	9月30日(2)	基本診療料の加算 算定条件 特殊診療料(医学管理 在宅医療)
9	10月 3日(2)	特掲診療料(投薬 画像診断 処置及び手術、麻酔) 歯冠修復 傷病による治:
10	10月 4日(2)	欠損補綴 修理 再装着 未来院請求
11	10月14日(4)	医療機関と薬局 医療保障制度
12	10月17日(2)	保険給付 歯科医療事務の仕事 公費負担医療 カルテの表書とレセプト用紙への転記
13	10月25日(2)	過去問題
14	10月31日(2)	過去問題
15	11月 1日(4)	過去問題
16	11月 8日(4)	過去問題
17	11月15日(4)	過去問題
18	11月18日(4)	過去問題
	11月26日	歯科医療事務技能試験予定

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	手話	千野裕子・鈴木洋美
実務経験	県登録手話通訳者としての実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
2	前期	1(30+2)
授業の目的		
耳の不自由な方が不安なく歯科診療を受けられるように聴覚障害について理解し、多様なコミュニケーション方法を学ぶ。 また、基礎的な手話および歯科関係の手話表現を習得する。		
行動目標		
1. 聴覚障害および聴覚障害者について理解する 2. 多様なコミュニケーション方法を学ぶ 3. 手話の基礎表現(名前・指文字・数字・人物・時・住所・職業・趣味)を身につける 4. 歯科の手話(単語・場面会話)を習得する 5. 聴覚障害者とのコミュニケーションの実際を体験する		
成績評価・検定		
留意点:手話は「動く言葉・視る言葉」です。講師の表現をしっかりと見て、自分でも手・指・体をしっかり動かしながら覚えましょう。講義終了時に行う試験の得点に、レポート・毎授業後行う確認テスト及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価します。(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書		「医療の手話シリーズ①手話で必見! 医療のすべて<外来編>(全日本ろうあ連盟出版局) プリント 振返りシート
回数	月日(時間数)	授 業 内 容
1	4月12日(2)	手話で自己紹介
2	4月19日(2)	聞こえの仕組みとコミュニケーション方法
3	4月26日(2)	基礎表現:挨拶・名前・指文字
4	5月10日(2)	基礎表現:数字・時
5	5月17日(2)	基礎表現:人物表現 家族の紹介
6	5月24日(2)	基礎表現:趣味・職業・住所
7	5月31日(2)	中間試験(手話による1分間スピーチ)
8	6月 7日(4)	(鈴木T)聴覚障害者のくらし・歯科医院での実際
9	6月14日(2)	歯科の手話①
10	6月21日(2)	歯科の手話②
11	6月28日(4)	(鈴木T)診療室での会話
12	7月 5日(2)	受付での会話
13	7月13日(4)	(鈴木T) 復習 試験 (筆記・実技)

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	臨地臨床実習Ⅱ	塚原 実佳
実務経験	歯科衛生士免許・専任教員認定歯科衛生士資格を有し、歯科診療所での実務経験を有する	
学 年	学 期	単位数(時間数)
2	後期	6(208+118=326)
授業の目的		
臨床の場を体験することにより各教科で学んだ内容について確認し、実践的理解を深める。 また、医療人としての自覚を促し、歯科衛生士として幅広い視野を身につけ、さらに良い人間関係を保つためのコミュニケーション能力を養う。		
行動目標		
1. 歯科診療の概要を理解する。 2. 歯科治療の流れを理解し、歯科衛生士業務について実感的に理解する。 3. 歯科治療の流れを理解し、病院 小児歯科 矯正歯科 特殊診療科における歯科衛生士の業務を理解する。 4. 医療人としての基本的対応法を身につける。 5. 患者様に寄り添う事の出来る人間性を養う。		
成績評価・検定		
実習終了時に各実習施設指導者により行う。		
教科書・参考書		
週数	月日(時間数)	授 業 内 容
30	10月23日(2)	実習オリ
33	11月13日(2)	実習オリ
34	11月20日(4)	実習オリ 準備
	11月22日(2)	準備
35	11月28日(8)	松本歯科大学病院現地オリエンテーション
	12月1日(2)	準備
36	12月4日(6)	準備
	12月5日(8)	診療所現地オリエンテーション
	12月6～8日(8)	準備
37	12月11～14日(16)	準備
38	12月20日(2)	準備
41	1月9～11日(18)	準備
42-44	1月15～2月2日(120)	臨床実習1(診療所)
45	2月5～7日(18)	実習まとめ・報告会
	2月8～9日(12)	実習まとめ・報告会
48	2月26～28日(18)	実習まとめ・報告会
48-51	3月1～22日(72)	松本歯科大学病院)を3週間づつで交代
52	3月25日(8)	実習まとめ・年間まとめ

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		臨床実習Ⅲ	松井 馨子
学 年		学 期	単位数(時間数)
3		前期～後期	12(320+120+162=602)
授業の目的			
1. 2年次に習得した知識と技術を再確認し、臨床における歯科衛生士の業務を習得する。また医療人としての自覚を養い、症例に応じたコミュニケーション能力及びコンピテンシーを身につける。			
行動目標			
1. 総合病院口腔外科における歯科衛生士の業務を習得する。 2. 歯科診療所における歯科衛生士の業務を習得する。 3. 医療人としての基本的対応法を身につける。 4. 患者様に寄り添う事の出来る人間性を養う。			
成績評価・検定			
実習終了時に各実習施設指導者により評価を行う			
教科書・参考書			
週	月日(時間数)	授 業 内 容	
2	4/10 (2)	臨地臨床実習オリエンテーション	
3	4/17 (2)	臨地臨床実習オリエンテーション	
	4/17～21 (10)	臨床実習準備	
4	4/24～28 (27)	臨床実習準備	
5	5/1～2 (8)	臨床実習準備	
6	5/8～12 (21)	臨床実習準備	
7	5/15～19 (2)	臨床実習準備	
	5/19 (8)	診療所実習現地オリエンテーション	
8	5/22～26 (16)	臨床実習準備	
	5/25 (4)	長野赤十字病院オリエンテーション	
9-26	5/29～9/29 (312+116)	長野日赤 診療所実習 2カ所	
	5/29～9/29 (50)	準備・まとめ	
27	10/2～4 (24)	臨床実習まとめ	

学 科	授業科目	担当教員名
歯科衛生士科	臨地実習Ⅲ(乳幼児・成人・高齢者)	松井 馨子
学 年	学 期	単位数(時間数)
3	前期～後期	0.5(82)
授業の目的		
地域歯科保健における歯科衛生士の役割を理解し、他職種との連携について学ぶ。		
行動目標		
1. 乳幼児健診の意義・内容を学び、歯科衛生士の役割について理解を深める。 2. 成人健診の意義・内容について学び、歯科衛生士の役割について理解を深める。 3. 高齢者施設における口腔ケア支援の実際について学び、歯科衛生士の役割について理解を深める。		
成績評価・検定		
各実習終了時学生指導者間でのまとめ反省会を持つと同時に全実習終了時にまとめを行い評価に変える。		
教科書・参考書		
	月日(時間数)	授 業 内 容
全体(2)	4/10 (2)	臨地実習オリエンテーション
	4/17	臨地実習オリエンテーション
成人 (18)	4/17 (2)	オリエンテーション
	4/19 (4)	総合健康センター事前オリ
	4/24 (8)	総合健康センター実習(A)
	4/25	総合健康センター実習(B)
	4/26	総合健康センター実習(C)
	4/28	総合健康センター実習(D)
	5/12	総合健康センター実習(E)
	5/17 (4)	まとめ
高齢者 (20)	4/27 (2)	オリエンテーション
	5/10 (4)	高齢者 特別講義
	5/12 (6)	高齢者 施設オリエンテーション
	6月～9月 (8)	高齢者臨地実習
乳幼 (14)	5/ 1 (2)	オリエンテーション
	5/ 8 (2)	乳幼児特別講義
	5/15 (2)	乳幼児特別講義
	6月～9月 (8)	乳幼児臨地実習
全体(28)	6月～9月 (28)	臨地実習準備・まとめ

学 科		授業科目	担当教員名
歯科衛生士科		臨地実習Ⅲ(特別支援学校)	松井 馨子
学 年		学 期	単位数(時間数)
3		後期	0.5(104)
授業の目的			
特別支援学校及び児童生徒に対する理解を深め、歯科保健指導の展開法を実践的に学ぶ。			
行動目標			
1. 特別支援学校及び、児童生徒の実態を理解する。 2. 特別支援学校における歯科保健指導の展開法を学ぶ。 3. 特別支援学校における児童生徒への保健指導のポイントを理解する。 4. 特別支援学校における児童生徒とのコミュニケーションの図り方を学ぶ。			
成績評価・検定			
実習終了時に、実習指導担当者により評価を行う			
教科書・参考書			
週	月日(時間数)	授 業 内 容	
31	10/30-11/4(22)	特別支援学校実習オリ・準備	
	11/2 (6)	特別支援学校実習準備・見学	
32	11/6-10(40)	特別支援学校実習準備	
33	11/13日(8)	特別支援学校実習準備	
	11月14日(6)	特別支援学校歯科保健指導実習(中等部)	
	11月15日(8)	特別支援学校実習準備	
	11月16日(6)	特別支援学校歯科保健指導実習(小等部)	
	11月17日(8)	まとめ	

